

平成29年度 第6回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 平成30年3月22日(木) 午後2時から4時30分まで
- 2 会 場 中央図書館2階会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：8名 傍聴人：1名
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務担当係長、花小金井図書館長、
調査担当係長、サービス担当係長、資料担当係長、
推進担当係長、大沼図書館長 計8名
- 4 配布資料 資料は省略させていただきます。
- 5 議事等
 - (1) 報告事項
 - ① 図書館の運営状況について
 - ・図書館行事の報告と今後の予定について（資料No.1）
（これまでの報告）
 - 恒例となっている幼稚園、小学校の図書館見学及び職場体験があった。
 - 1月24日 ブックスタートに向けて読み聞かせボランティアスタートアップ講座
開始
 - 2月15日 図書館親子スペシャルデーを開催した。毎回好評で、平成29年10月
には小川西町図書館でも開催した。
 - 2月21日 ハンディキャップサービス交流会
 - 2月23日 情報検索講座
 - 2月21日～27日 なかまちテラス来館者50万人達成記念イベント
なかまちテラスLINKSが中心になり展示やオリジナルしおりの配布
最終日には交流会を実施
 - 3月10日から津田図書館でポスター展を、17日から喜平図書館で郷土写真展を開
催
(今後の予定)
 - 3月24日～25日 小平図書館友の会主催の古本市
 - 3月31日～4月18日 障がい者支援課と「発達障がい週間展示」を実施
 - 4月は、「こども読書月間」として全館で様々な行事を開催
 - 4月10日 小平市子ども文庫連絡協議会定期総会

- ・2月に入って、西部市民センターのエレベーターが故障した。昭和55年開設当初からのエレベーターであり、修理に時間と経費が必要なため、関係各課と調整中である。
- ・平成29年度月別貸出状況について（資料No.2）
平成30年1月末で前年度と比較し、月別館別貸出資料数は23,050点減、月別登録者数は339人減、月別貸出者数は6,964人減であった。
- ・広域利用市別貸出状況について（資料No.3）
貸出者数及び貸出資料数ともに西東京市、清瀬市が増であった。

② ブックリサイクル実施状況について(資料No.4)

例年好評で、年3回の合計で前年度比リサイクル提供数、リサイクル率ともほぼ同程度の値である。

③ 3月市議会定例会について

一般質問では、図書館関連はなかった。3月8日の予算特別委員会では、6委員から7件の質問があった。

「ブックスタート事業の内容について」の質問があり、それに対して、「3～4か月児健康診査時に職員とボランティアが3組程度の乳児と保護者に対して、絵本の読み聞かせを行い、絵本を手渡す。」と答弁した。「何人にどのような本を配付するのか。」との再質問があり、「健診の受診率は97.3%で、平成27年度では1,667人が受診している。配付する絵本は、2種類を用意し選択してもらう。」と答弁した。

「ブックスタートなど年齢に応じた切れ目のない支援が必要と思うが、どう考えるか。」の質問があり、それに対して、「受診率97.3%を対象に実施するので、中には図書館を利用したことがない方もいることから、図書館や絵本のへや等について知ってもらい、利用につなげたい。」と答弁した。

「レファレンス機能の充実について、学校図書館との連携事業についてどのようなことに取り組んでいるのか。」の質問があり、それに対して、「第3次小平市子ども読書活動推進計画の一端として、小中学生に対してのレファレンスの充実を目指し、平成28年度は中央図書館で、翌29年度は仲町図書館で夏休み子ども専用カウンターを設け、宿題や調べ学習の支援を行っている。」と答弁した。「学校図書館との連携推進事業の中で行っていることは。」との再質問があり、「小中学校の図書館協力員の求めに応じ、調べ学習用の図書を貸し出している。平成28年度実績として、小中学校合わせて17,074冊を貸し出している。年々増加にあり、その活用が定着している。」と答弁した。

「学校図書館協力員の配置状況、人数は。」の質問があり、それに対して、「小中学校に各1人を配置しているので、合計27人である。」と答弁した。

「図書館のあり方の検討について、平成29年度の進捗状況と来年度の検討内容は。」

の質問があり、それに対して、「図書館を取り巻く状況、小平市立図書館のこれまでの取り組みや他の自治体の動向等を踏まえ、協議、検討している。平成30年度は運営方法、公共施設マネジメントの視点からさらに深く検討する。」と答弁した。

「Wi-Fiを他の地区館に広げることについての検討状況は。」の質問があり、それに対して、「中央図書館と仲町図書館に導入しているが、中央図書館での利用が多いという実態から、現行の中央図書館及び仲町図書館以外は考えていない。」

「小川西町図書館のエレベーター故障の修理は。」の質問があり、それに対して、「2月上旬から故障している。関係各課と調整中であり、その間はできる限りの対応を職員で努めている。」と答弁した。

当初予算については、次回の図書館協議会で報告する。

(報告事項に関する質疑・応答)

委員：資料の貸出数が近年減ってきているが、小平市の人口はどうか。

事務局：人口は微増である。

委員：人口は増えているが、貸出人数は減っているということなのか。

事務局：26市が同じ傾向にある。一方でレファレンスや予約数は増加している。貸出よりも求めるサービスに変化が出てきたと考える。

委員：ブックスタート事業が開始されることで、登録者数が増えるといい。

事務局：図書館は公共施設の中で利用が多いが、健診には約97パーセントが参加しているので期待したい。

会長：ブックスタートをきっかけに登録数が増えるといいが、年齢的にどの層の利用が多いのか。偏りがあるのではないか。

事務局：統計的には小学生以下と成年層の利用が比較的多い。ティーンズ層が少ない。

委員：ブックスタートの本は決まっているのか。

事務局：「くつついた」と「びょーん」の2種類を用意し、希望により提供する。

会長：2月23日に開催された「図書館情報検索講座」の参加者が3名は寂しい。

事務局：講座に使用するパソコンの台数の関係で、募集は10名だった。参加者は高齢者が多く、好評だった。今後は広報に努めたい。

委員：レファレンス件数が増えてきているが、一般的にはスマホ等での検索が増える中、いいことだと思う。

事務局：平成23年度は24,206件だったのが、平成28年度は47,642件だった。今年度は「パスファインダー」を作成し全館に設置し、レファレンスとは何かを紹介した。また、市役所にもそれぞれの業務に利用できるようPRしている。

会長：市役所からの問合せはどうか。

事務局：2年前から行政支援を正式に開始したが、レファレンス通信も作成しており、徐々に増えてきている。

事務局：追加の報告であるが、図書館のブランディングについて、武蔵野美術大学と昨年

1年間連携協議し、その一端として、この3月末から図書館グッズを販売する。トートバッグと3種類のクリアフォルダー。図書館のPRを兼ねて全館で販売する。

委員：グッズ販売で利益が発生した場合はどうなるのか。

事務局：グッズ販売の目的は、図書館の広報、イメージアップであり、製作費のみで単価を決めている。

委員：グッズが売れないと問題になるのか。

事務局：販売を止めることはしない。売れて次のグッズがつかれるよう、PRを含め、継続していきたい。

委員：ブランディングについて、展示はすでにやっていた。

委員：利益が出てはいけないことについて、博物館では友の会をつくって処理しているところが多い。

(2) 協議事項

① 平成30年度小平市立図書館事業計画(案)について

毎年、事業計画を作成し、この計画に基づいて事業を行っている。昨年度との変更点について説明する。

小平市教育振興基本計画が策定から5年が経過したので、後半5年に向けて改定があったため、「1 基本方針」の記述が変更になっている。「①図書館資料の充実」の記述の内容を「市民が求めている資料や情報を確実に提供するため、資料・情報の充実や市民が必要な情報を入手できる環境の整備に努めます。」に改めた。「②歴史的資料の総合管理・提供体制の検討」及び「③レファレンス機能の充実について」を追加した。「④子ども読書活動の推進」の記述内容を「子どもが豊かな感性や想像力を身に付け、人生をより深く生きるために、本とふれあう環境を整え、自主的な読書活動につなげます。」に改めた。「⑤学校図書館支援の充実」の記述内容を「学校図書館の蔵書の充実、学校図書館相談員と学校図書館協力員の配置、調べ学習用図書を貸出する配送便等により、学校図書館が学校教育活動に活用されるよう支援します。」に改めた。「⑥ブックスタートの実施」及び「⑦図書館の機能のあり方の検討」を追加した。

「2 推進事項」も基本方針を受け、「(3)「子どもたちの読書活動を支援するため「第3次小平市子ども読書活動推進計画」を着実に進めます。また、第4次小平市子ども読書活動推進計画の策定に向けた準備をします。」及び「(4)将来にわたり本に親しむ環境を整備するとともに、絵本を介して親子がふれあうきっかけをつくるためブックスタートを実施します。」、「(7)地域資料・貴重資料のさらなる活用を図るため、デジタル化を行い新たに立ち上げるデジタルアーカイブのウェブサイトで広く公開します。」を追加した。

「3 実施事業」については、「(5) 地域資料等の収集・整理・保存及びデジタル化」に「⑥地域資料のデジタル化及びデジタルアーカイブ化の実施」を追加した。「(9) 児童サービス」に「⑧ブックスタートの実施」を追加した。「(10) 「第3次小平市子ども読書活動推進計画」の取組」に「さらに第4次子ども読書活動推進計画策定の準備に着手します。」の記述を追加した。「(17) 図書館ボランティア活動の推進」に「⑦ブックスタート」を追加した。そして新たに、「(25) 図書館情報総合管理システムの更新」及び「(26) 図書館のブランディング」を追加した。

② 平成30年度小平市図書館協議会日程(案)について

平成30年度も隔月の木曜日の開催を予定している。教育委員会には、数多くの会議等があることから年度当初に重ならないよう日程調整がなされている。従来通り木曜日の午後2時からの開催でお願いしたい。

(協議事項についての質疑・応答)

会 長：事業計画の前に、図書館協議会の日程について諮りたい。提案内容でよろしいか。
－異議なしの声あり－

委 員：公文書館的機能の充実が図られるのは良い。人が来る、人を喜ばせる図書館を意識している点も良い。レファレンスサービスの中に、古典を原典で読む講座や書誌学の実習講座を加えることができれば良い。

事務局：講座開催には講師謝礼が必要である。確かに歴史物は人気があるが、講師料の予算は措置していない。予算がなくても開催できるものがあればと考えている。

委 員：手作りで和綴じの本を作る講習会を開催するなど図書館を博物館のような、いわば図書博物館として運営しているところがある。これは人を育てる一法である。図書館の職員は、単に本を貸し出すだけでなく、見聞を広めるためそのようなところを見学し、どのように対応されるかを経験した方が良い。

事務局：3年前の図書館40周年事業の際、本の修理講習を開催し好評であった。このような講習を含め様々なことを検討していきたい。また、他の図書館を見学することは非常に参考になるので、機会があれば積極的に見学をしたい。

委 員：デジタルアーカイブについて、予算化できたので公開する運びと聞いているが、他で実際公開してもその利用が少ないということも聞いている。そのため、公開するならば活用しやすい運用方法にしてもらいたい。例えばトリプルアイエフ(III F)という複数のデジタルアーカイブのデータをブラウザ上で容易に加工等ができるものがある。また、図書館システムの更新に際して、カーリルが正しいとは言わないが、目先を変えても基本はあまり変わってこない。新しいものはリスクがあるが、資料の検索時にこの本というだけではなく、この類の本という選択ができれば良い。簡単に検索できる仕組みが導入できればと思う。

事務局：現在、デジタルアーカイブで考えているのは定点写真。昭和 56 年から貴重な写真が残っている。市史や絵図についても考えている。また、図書館システムの件は、指摘の点を含めて検討している。

委員：デジタルアーカイブについて、I I I F に対応するだけでかなり高度なことができる。

委員：未知の作家に出会うのは、読書の楽しみ。現在、有名な芥川賞や直木賞以外に数多くの文学賞がある。それらの受賞作を集めた書架を設けたらどうか。

事務局：常設は難しいが、展示の形式で各館検討し対応している。また、分類ごとに書架の面出し対応もしている。

委員：インターネット系の書店でも各文学賞関連のリストを出している。機械的に選択表示ができています。これらが可能な図書館システム業者の選択もあるのではないかと。

事務局：電算システム入替えに関しては、確かにそのようなことも考慮したい。また、書架についても、POP 研修として紀伊国屋書店から講師を招くなど職員研修を行っている。どのように本を見せていくか工夫をしている。

委員：POP や書架づくりについて、紀伊国屋書店本店では複数の大学と連携して高校生向けの学習参考書のあるコーナーの近くに女子大学生が選んだ本を POP 付きで紹介している。ティーンズ向けの本を大人が選ぶのではなく、例えば小平市内の高校と提携して高校生が選ぶ方がベストではないかと思う。

委員：仲町図書館のティーンズコーナーで POP により中学生が紹介した本があった。同世代が選んだ本があることは素晴らしい。そのような場が広がることは良い。

事務局：職場体験の中学生に作ってもらっている。中学生も自分たちが作ったものが飾られることに喜びを感じることができる。

副会長：以前から提案して賛同が得られないが、書架の一つの棚を図書館協議会の委員たちが月替わりに選んだ本を並べることができれば面白い。

事務局：要望があれば、準備できる。

会長：デジタルアーカイブについて 800 万円の補助金があると聞いたが、どこからのものか。

事務局：図書館振興財団である。

会長：市の負担はあるのか。

事務局：サーバー代の賃貸借料の月 5 万円程度の負担がある。来年の 1 月から公開できればと考えている。

会長：補助金は何年間か。

事務局：3 年間で 800 万円である。

委員：学校図書館に相談員と協力員が位置付けられているが、相談員とは何か。

事務局：学校図書館連携事業を仲町図書館で行っている。嘱託職員 2 名が相談員を担当。協力員との調整等まとめる役割を担っている。

委員：ブックスタートの提供本について、数年後には変更するのか。

事務局：具体的に実施してから、その評判も考慮して検討する。

会長：図書館システムの更新は平成 30 年度中でよいか。

事務局：従来は 5 年ごとのリース契約で、昨年 10 月で切れ、現在は延長の契約となっている。来年度の後半に行う予定である。

副会長：デジタルアーカイブの写真は、定点撮影等豊富であることから期待したい。

事務局：まずは定点写真のアーカイブ化を行い、その他についてはテーマ等により検討したい。将来は、小川家文書も検討したい。

会長：平成 30 年度について、事業計画に基づいて図書館が運営できるよう協議会も協力しながら進めていきたい。